

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

## DEX-III (AIX 版) バージョン 2.02 リビジョン02 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。  
さて、当社製品「DEX-III (AIX 版)」(Ver.1.03-04→Ver.2.02-02)において、  
下記のような改修を行いましたのでお知らせ致します。

敬具

記

### [概要]

- ・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

### [強化項目]

以下の機能を強化しました。

### [システム全般]

- ◎JCA 手順、および全銀ベーシック手順に対応しました。  
AIX 6.1、および AIX 7.1 の 32bitJava6 環境での動作を保証します。
- ◎以下の OS に対応しました。  
<全銀 TCP/IP 手順>
  - ・ AIX 7.1※Java 実行環境は 32bitJava6 および 64bitJava7 の対応です。
- ◎以下の OS の 32bitJava6 および 64bitJava7 環境を動作対象に追加しました。  
<全銀 TCP/IP 手順>
  - ・ AIX 6.1
- ◎以下の OS の 32bitJava5 環境を動作対象から除きました。  
<全銀 TCP/IP 手順>
  - ・ AIX 6.1
- ◎動作環境を変更しました。
  - ・ハードディスク：500MB 以上の空きディスク
- ◎スケジュール機能を追加しました。

- ◎文字コード変換機能を追加しました。  
以下のホストコードと端末コードの相互変換に対応します。  
<ホストコード>
  - ・EBCDIC (英数カナ文字セット／英小文字セット)
  - ・EBCDIK
  - ・IBM 漢字コード
  - ・JEF 漢字コード
  - ・KEIS 漢字コード<端末コード>
  - ・シフト JIS
  - ・EUC※外字もサポートしています。

#### [ライセンス関連]

- ◎回線数 (セッション数) のライセンスが 1 回線ずつ追加できるようになりました。
- ◎回線数 (セッション数) の上限を無制限から 128 回線に変更しました。

#### [インストール関連]

- ◎DEX-III が使用する Java 実行環境を環境変数で指定できるようにしました。
- ◎ログの出力先を環境変数で指定できるようにしました。

#### [運用管理機能関連]

- ◎Web 形式の管理画面を用意しました。  
※対応ブラウザは「Windows Internet Explorer 8,9,10」および「Firefox 3.6 以降」 (AIX 環境での使用のみ) です。  
※SSL 接続が可能です。
- ◎運用管理ツールを廃止しました。  
運用管理ツールの機能は以下を除いて Web 形式の管理画面 (新規) に移行しました。  
<非対応になった機能>
  - ・複数ファイルの抽出 ※1
  - ・ログ閲覧ツールの起動 ※2<ログ閲覧ツールに移行した機能>
  - ・ライセンス情報の表示
  - ・RMI 設定※1: コマンドラインユーティリティでの抽出は可能です。  
※2: ログ閲覧ツール単体での起動は可能です。
- ◎DEX-III の起動時に伝送ファイルのステータスを変更するようにしました。
  - ・「処理中」を「処理済み (異常)」に変更
  - ・「再試行待機中」を「処理済み (異常)」に変更
  - ・「処理待機中」を「登録済み」に変更
- ◎コマンド定義に以下の予約語を追加しました。  
\$PORT: 通信に使用したポート定義名と置き換えます。

#### [セキュリティ機能関連]

- ◎アカウントに対して以下のポリシーを設定できるようにしました。
  - ・アカウント: 自動ロックアウト、自動削除
  - ・パスワード: 単純パスワードの禁止、強制変更

◎アカウントの権限を以下の3種類に変更しました。

管理者：すべての操作が可能

運用者：システムの設定、ユーザアクセスログの照会を除く操作が可能

照会者：照会のみ可能

◎運用者、照会者権限のアカウントのアクセス範囲を、自らが所属する運用グループ（新規）に関連する定義のみに制限できるようにしました。

#### [全銀 TCP/IP 手順関連]

◎ローカルアドレスを固定したファイル転送をできるようにしました。

◎レコードフォーマットが固定長の場合、伝送ファイルの登録時に、ファイルサイズがレコード長の倍数になっているかをチェックできるようにしました。

◎1 次局で再送要求電文を受信した場合に、直前の「処理済み（正常）」のファイルを再送できるようにしました。

※取りまとめ送信時は、取りまとめた単位で再送します。

※サイクル番号を使用している場合、本機能は使用できません。

◎以下の結果コードのみ再試行するようにしました。

・ E\_P\_SOCKET

・ E\_P\_LINE

・ E\_P\_ZGTRANSPORT

◎1 次局送信でノーデータの場合の結果コードを「S\_SUCCESS」から「E\_K\_NODATA」に変更しました。

◎2 次局列信機能を非対応としました。

#### [ユーティリティ関連]

◎CATALOG コマンド、UNCATALOG コマンドの実行時に、セクション ID を標準出力および指定ファイルに出力するようにしました。

◎以下のコマンドで、処理対象のフォルダ名をワイルドカード「\*」「?」を使用して指定できるようにしました。

・ CYCLE コマンド

・ DELETE コマンド

◎通信ログを照会する LOG コマンドを追加しました。

詳細情報の照会に使用する通信ログの ID は、START コマンドの実行時に標準出力に出力されます。

#### [インポート&エクスポート機能関連]

◎インポート／エクスポートを行うコマンドを変更しました。

<変更前>

インポート : dexconfig -IMPORT

エクスポート : dexconfig -EXPORT

<変更後>

インポート : dexmsUtl IMPORT

エクスポート : dexmsUtl EXPORT

◎ファイルフォーマットを XML 形式に変更しました。

※旧ファイルフォーマットでのインポートもサポートします。

◎インポート処理の終了時に、処理結果を確定するかキャンセルするかを選択できるようにしました。

※処理に失敗した場合はキャンセルされます。

◎インポート、およびエクスポートの-e オプションに"UTF-8"を指定できるようにしました。

## [保守機能関連]

◎以下のログを追加、および廃止しました。

<追加したログ>

- ・通信ログ
- ・定義操作ログ

<廃止したログ>

- ・オペレーションログ ※1

※1：通信ログと定義操作ログに移行しました。

◎通信ログの内容を DEX-III が稼働するマシンの `syslog` に出力できるようにしました。

◎通信ログ、およびメッセージログに以下の情報を出力するようにしました。

- ・IP アドレス/ポート番号 (全銀 TCP/IP 手順の場合)

◎ポートアクセスログに以下の情報を出力するようにしました。

- ・ポート名
- ・クライアントの IP アドレス (全銀 TCP/IP 手順の場合)

◎以下の処理を行うジョブ定義を用意しました。

- ・サイクル番号のリセット処理
- ・ファイルの削除処理
- ・ログの削除処理、および内部データベースの圧縮処理

## [マニュアル関連]

◎マニュアルを以下の 6 つに統廃合しました。

- ・『DEX-III ≪AIX 版≫ インストールガイド』 (印刷物、PDF ファイル)
- ・『DEX-III ユーザーズガイド』 (PDF ファイル)
- ・『DEX-III コマンドラインユーティリティ リファレンスガイド』 (PDF ファイル)
- ・『DEX-III 定義インポート&エクスポート リファレンスガイド』 (PDF ファイル)
- ・『DEX-III コード変換処理 リファレンスガイド』 (PDF ファイル)
- ・『DEX-III WinSAM & IXSAM 設定ガイド』 (印刷物、PDF ファイル)

## [改修項目]

以下の問題点を修正しました。

### [運用管理機能関連]

- ・以下の処理を含むバッチ処理をコマンド実行すると、バッチ処理が途中で終わってしまうことがある。
  - ・標準出力、標準エラー出力への出力処理
  - ・ファイルへのリダイレクト処理

### [全銀 TCP/IP 手順関連]

- ・ファイルサイズが 2,147,483,647 バイトを超えるファイルを登録できない。
- ・複数のファイルを取りまとめて送信すると、ファイルのステータスが「転送中」のままになることがある。
- ・1 次局からの取りまとめ送信で送信フォルダが使用中の場合の結果コードに誤りがある。
  - <誤>  
S\_SUCCESS
  - <正>  
E\_K\_FOLDERINTRANSMISSION
- ・受信フォルダにファイルの登録がない状態でノーデータ転送を行うと、受信側でコマンドのパラメータ "\$ENDDATE" が不正な値となる。

- ・ファイル転送を中断した受信ファイルに、0 バイト、またはノーデータのファイル受信を行っても、中断までに受信したデータが残る。
- ・2 次局の場合、接続に失敗するとソケットチャネルがクローズされない。

#### [ユーティリティ関連]

- ・START コマンドで `-sync` オプションを指定しているにもかかわらず、フォルダ転送の終了を待たずに、終了コード「0xf3」（システムエラー）が返ることがある。
- ・UNCATALOG コマンドで `-INF` オプションを指定すると、0 バイトの「登録済み」ファイルが抽出されず、情報リストへの出力も行われない。
- ・DELETE コマンドで `-t` オプションを指定すると、削除対象のファイルがすべて削除されずに残ることがある。
- ・DELETE コマンドで 128 個または 134 個のファイルが正常に削除されると、以下のメッセージが表示され、終了コードが 0x00 以外になる。
  - <128 個のファイルを削除した場合>  
「指定フォルダ名が不正です。(80)」
  - <134 個のファイルを削除した場合>  
「指定されたセクション ID が不正です。(86)」

#### [保守機能関連]

- ・インストール先の `bin` ディレクトリ以外から問題判別情報収集用のコマンドをフルパスで指定して実行すると、情報が収集されない。

#### [マニュアル関連]

- ・`dexutl` コマンド終了コード一覧に、START コマンドの以下の終了コードが記載されていない。
  - 0x1e：ノーデータ転送エラー
  - 0x1f：ソケット接続/回線エラー
 ※`dexutl` コマンド終了コードの説明は、『DEX-III コマンドラインユーティリティ リファレンスガイド』に移動しました。
- ・『DEX-III ユーザーズガイド』に、ログに出力されない結果コード「E\_L\_LOGNOTFOUND」が誤った内容で記載されている。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware vSphere 5.0	Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 Standard	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 Essentials	—	○
	Red Hat Enterprise Linux 5.5	○	—
	Red Hat Enterprise Linux 6.3	—	○

○：確認済み —：対象外

<前提条件>

仮想環境で利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上